

2019年10月号

須藤コーチのस्टロイ言葉

今回は育成年代には獲得が難しく、習慣化には時間が掛かる『観ること』の大切さをテーマに話を進めて行きたいと思います。

何故あの子はボールを取られないのだろうか？

何故あの子はいつも簡単にボールをもらえるのだろうか？

そんな子がチームに一人や二人はいると思います。

では一体その答えは何なのか？

勿論、技術があるから！

身体能力があるから！

というものもあるかもしれません。

ただ、それだけでは決していないのです！

その子がプレー時にしていることは周りの状況を常に観ていること！

ただ周りを観ているだけではなく字のごとく観察しているのです！

・相手の位置・味方の位置・ゴールの位置・空いているスペース・そしてボール。

これらの情報をボールをもらう前に獲得しています！

情報が多ければ多いほど有利な状況、有利な姿勢、有利な位置でボールを受けられ、あたかも自分は相手のプレッシャーを受けてないのでは!!と思うほど自由にボールを受け、プレーできるようになります。

では一体いつ周りを観ているのか？

サッカー関連の書籍にはボールをもらう前だったり、ボールの移動中に！

というフレーズが出てきますが、一括りにボールをもらう前と言っても様々です！

出し手がパスを出せる状況なのか？相手にマークされていないか？出し手の状況を観ずにボールをもらう前だからといって周りを見てボールをもらいに動いたり声を出してもパスは出てこなかったり、1テンポ遅れて出てきたりします。

自ずとパスがズレたり、タイミングが合わずトラップミスしたり、相手にインターセプトされることが多くなります。

ボールの移動中に！というフレーズにも付け足しが必要になります。

出し手からボールが離れた瞬間から受け手の足元に届く寸前まで全てボールの移動中だからです！

受け手に届く寸前で周りを観ていてはボールがどこにあるか分からずトラップすることはできません、自分の前や後ろを通過してしまったり軸足に当たったりと兎に角トラップが困難な状況になります。

そんなことから私はいつも「パスの出し手がボールを蹴った瞬間周りを観よう！」と伝えます！

勿論出し手がパスを出す前にはあらゆる情報を獲得するために周りを観ておく必要がありますが、最後の確認作業は蹴った瞬間にもう一度周りを観ることが大切です。

この際気を付けないといけないのは周りだけ観ることに意識が行き過ぎてしまい、最後にボールを見忘れてしまったり、周りを観る時間が長過ぎて寸前でボールを観ることになってしまうことも多々あります。これではミスが多くなってしまいます。

オンのドリブル練習は認知する作業がないため、簡単に落とし込むことはできますが、認知、判断の伴うオフのトレーニングはアイデアやオーガナイズを駆使したメニューで子供たちに落とし込まないと中々取得が難しいものになってしまいます。

子供によっては個人差がありますが一度獲得してしまえばその後のコンビネーションなどのグループ戦術やチーム戦術にもスムーズに発展していけるとと思います。

個人でのドリブル突破を生かすも殺すも、どれだけオンの時に優位な状況でボールをもらうかです！

そのためにはオフの時に常に周りのありとあらゆる情報をタイミング良く獲得できるかに掛かっています。

Routeのトレーニングでは試合からの逆算でトレーニング構築をしております。

本物の上手い選手になっていただけるように今後も全力で指導させていただきます。

